

ソフトピアジャパンDX事例発表会2026

「AI」と診るという選択 画像診断支援AIサービス



タック株式会社
健診営業グループ
久保田 浩史



目次

1. はじめに
2. 医療現場における画像診断の課題
3. 導入が進む画像診断支援AI
4. 画像診断支援AIへの期待

1. はじめに



会社紹介

概要

社名	タック株式会社
設立	1976年3月1日
株主	イビデン株式会社(100%子会社)
資本金	60百万円
所在地	岐阜県大垣市小野4-35-12
代表者	代表取締役社長 高橋繁樹
事業内容	1)システムインテグレーション 2)パッケージソフトウェア開発・販売 3)シェアードサービス構築・提供 4)クラウドサービス 5)ネットワーク設計・施工 6)ITセキュリティサービス 7)情報機器販売
主要取引先	・医療機関、健診機関、官公庁 ・イビデン株式会社、イビデングループ その他各社
売上高	152.5億円(2025年3月期)
従業員数	433名(2025年4月1日現在)
事業所	岐阜(本社・ITP・イビデン)、東京(東京支店、上野ソリューションセンター、日本橋ソリューションセンター)、福岡(福岡支店)
加盟団体	一般社団法人 中部産業連盟 一般社団法人 岐阜県経営者協会 社団法人 岐阜県情報サービス産業協会 大垣商工会議所情報委員会 他

取得認証



※2018年より8年連続認定

Copyright TAK Co., Ltd.

事業拠点



東京支店



東京上野SC



東京日本橋SC



本社



ITプラザ



福岡支店

会社紹介

製品ラインナップ



「匠」に込める想い

古くからものをつくる工芸技能に優れた人の敬称。熟練者が丹念に仕上げる逸品にしたいと願いを込めて「匠」と名付けた製品シリーズ。

私たちは「匠」の心でお客様に寄り添い、挑戦し続けています。すべてのお客様に「使いやすい」を届けたい、そんな私たちの想いを込めています。

ヘルスケアソリューション						ビジネスソリューション			セキュリティソリューション	
医療機関、健診専門施設向け		医療機関、健診専門施設向け		診療所、クリニック向け		製造業向け			全業種向け	
医療機関、健診専門施設向け		医療機関、健診専門施設向け		診療所、クリニック向け		製造業、建設業向け			全業種向け	
										
タック総合健診システム		健診Webソリューション ※オプションサービス		タック健診クラウド		タック Smart工場クラウド			タック Safety Gate	
健診ビジネスのあらゆる業務をトータルにサポートし、事務作業を省力化・効率化する シェアNo.1 の健診業務支援システムです。 <i>1994年発売</i>		インターネットを活用し、予約・問診入力・健診結果照会など、受信者の満足度向上につなげるWebサービスです。 <i>2014年発売</i>		業界シェアトップクラスのタック総合健診システムで得た知見をもとにした診療所・クリニック向け健診クラウドサービスです。 <i>2021年発売</i>		ものづくり現場の設備稼働ロス・品質トラブル改善に着目し「生産能力の最大化」をデジタル技術で支援するクラウドサービスです。 <i>2020年発売</i>			AIカメラを用いて作業現場の労働災害リスク低減のサポートと労働安全衛生対策を推進するクラウドサービスです。 <i>2024年発売</i>	
タック電子カルテシステム		タック電子カルテシステムDr.F		じぶんでできる MentalCare ※ストレスチェック		タック Secure Platform			タック Secure Platform	
健診施設における二次検査などの保険診療業務をサポートするタック総合健診システム専用の電子カルテシステムです。 <i>2021年発売</i>		周産期・不妊治療施設特有の業務を効率化し、外来から入院までをトータルにサポートするクラウド型にも対応した シェアNo.1 の電子カルテシステムです。 <i>2016年発売</i>		メンタルヘルス不調者の発生予防を支援し心豊かな社会の実現に貢献するクラウドサービスです。 <i>2013年発売</i>		ランサムウェア感染から大切な情報資産を守り、安全・安心なシステム利用につなげるセキュリティサービスです。 <i>2024年発売</i>			ランサムウェア感染から大切な情報資産を守り、安全・安心なシステム利用につなげるセキュリティサービスです。 <i>2024年発売</i>	
タックリハビリテーション支援システム		タックリハビリテーション科向け		産婦人科・不妊治療施設向け		健診専門施設・EAP、企業団体向け			ヘルスケアソリューション	
										
療法士の事務作業を効率化し、最適なリハビリテーションの提供をサポートする シェアNo.1 のリハビリテーション支援システムです。 <i>2007年発売</i>		医療機関、リハビリテーション科向け		産婦人科・不妊治療施設向け		健診専門施設・EAP、企業団体向け			ヘルスケアソリューション	

タック総合健診システムの歴史

-
- 1994 ● 「タック総合健診システム Ver.1」リリース
 - 2000 ● 「タック総合健診システム Ver.2」リリース
 - 2006 ● 「タック総合健診システム Ver.3」リリース
 - 2007 ● 「タック総合健診システム」特定健康診査対応
 - 2008 ● 「タック保健指導支援システム」リリース
 - 2011 ● 「タック総合健診システム Ver.4 Professional Edition」リリース
 - 2013 ● 「タック総合健診システム Ver.4 Professional Edition 巡回オプション」リリース
「ストレスチェックシステム(じぶんでできるMentalCare)」リリース
 - 2014 ● 「ドックの扉(健診Web予約サービス)」リリース
 - 2015 ● 「タック総合健診システム Ver.4 Standard Edition」リリース
「タック健診Webソリューション(予約/問診/結果)」リリース
 - 2021 ● 「タック総合健診システム Ver.5」リリース
- 業務効率化 + **新たな価値を持つサービス連携**

2. 医療現場における画像診断の課題



読影とは

読影(どくえい)という言葉をご存知ですか？



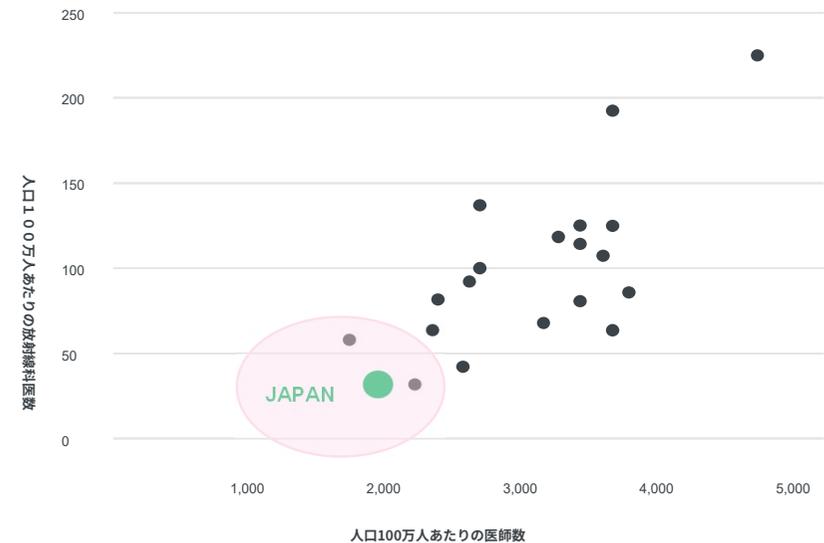
医療機関において撮影された胸部X線やCT・MRI・内視鏡等の検査画像を専門医が読み解き病
気やケガの診断を行う行為
—画像診断—

日本が抱える画像診断における課題

- 日本の放射線科医の潜在的業務量は、**アメリカの2.7倍^{*1}**と医師の負荷は大きい状況
- 他国に比べて放射線科医の潜在的業務量が非常に多く、都道府県間の地域差も大きい^{*1} という課題

国名	放射線科医 /人口百万人	CT検査数(年間) /人口千人	MRI検査数(年間) /人口千人	CT・MRI検査数(年間) /放射線科医
日本	42.1	229.2	113.4	8137
アメリカ	121.9	245.0	117.7	2975
韓国	63.3	157.7	27.3	2923
カナダ	70.7	148.5	54.9	2877
ドイツ	40.7	130.2	114.3	2632
イギリス	52.1	75.7	40.4	2228
フランス	128.6	187.9	95.5	2204
オーストラリア	82.3	119.7	41.0	1953

各国の放射線科医数とCT/MRI検査件数^{*1}



人口100万人あたりの医師数と放射線科医の比較^{*1}

放射線科医（読影医）不足および負荷軽減は喫緊の課題

^{*1} 出典：CTおよびMRI検査における打撃箱紛争の純同院職権の差および日本の地域別の差異(Japanese Journal of Radiology, 2018)
日本のCT・MRI検査数は2015年度のデータ、他国のCT・MRI検査数はOECD保険統計2016のデータをベースに比較

日本が抱える画像診断における課題

画像診断の見落としが発生し、死亡例も報告

医療機関B

肺がん検診における胸部エックス線検査の画像診断を適切にせず、計8人に肺がんの疑いがあるのに見落とし「異常なし」と判断

2018.6

2020.1

2023.12

医療機関A

健診における胸部X線検査で肺癌を三度にわたって見落とし、のちに死亡。過去にがん検診を受けた9,424人の画像を再読影したところ、44人に要精密検査の所見を確認。

医療機関C

CT画像による胸腹部大動脈瘤の診断で緊急性なしと誤って判断し帰宅させた80代男性が、翌日容体が急変し、死亡

医師の経験や体制による診断の質
業務過多による診断の質

3. 導入が進む画像診断支援AI



画像診断支援AI

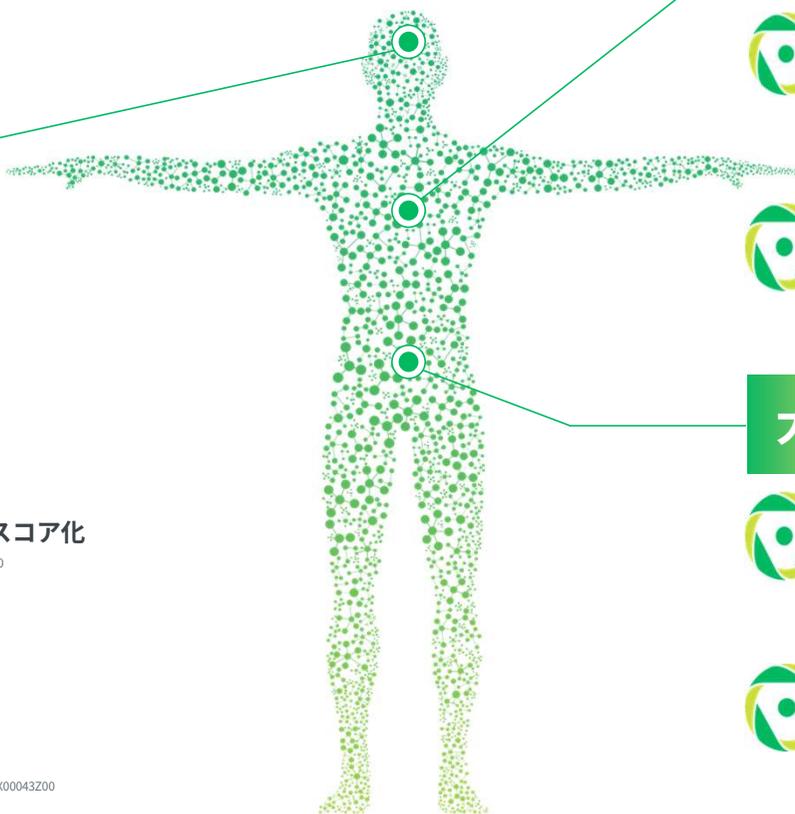


見落としのリスクが大きい疾患を対象に医師の診断をサポートする製品

医療機器製造販売
承認・認証

9 製品

がんの早期発見支援



頭部



MRA画像から脳動脈瘤の候補点を検出するAI
販売名：医用画像解析ソフトウェアEIRL aneurysm 製造販売承認番号：30100BZX00142000



MRI画像から白質高信号領域等の自動計測とスコア化
販売名：医用画像解析ソフトウェアEIRL Brain Metry 製造販売承認番号：230AGBZX00107200



頭部CT画像から高吸収 / 低吸収領域及び、組織構造・境界の不明瞭化領域の抽出・表示
販売名：医用画像解析ソフトウェアEIRL Brain Segmentation 製造販売承認番号：303AGBZX00043200

胸部



胸部X線画像から異常陰影候補を検出、特定の部位を自動計測



胸部CT画像における肺結節候補領域の自動検出と計測
販売名：医用画像解析ソフトウェアEIRL Chest CT2 製造販売承認番号：30700BZX00064000

大腸



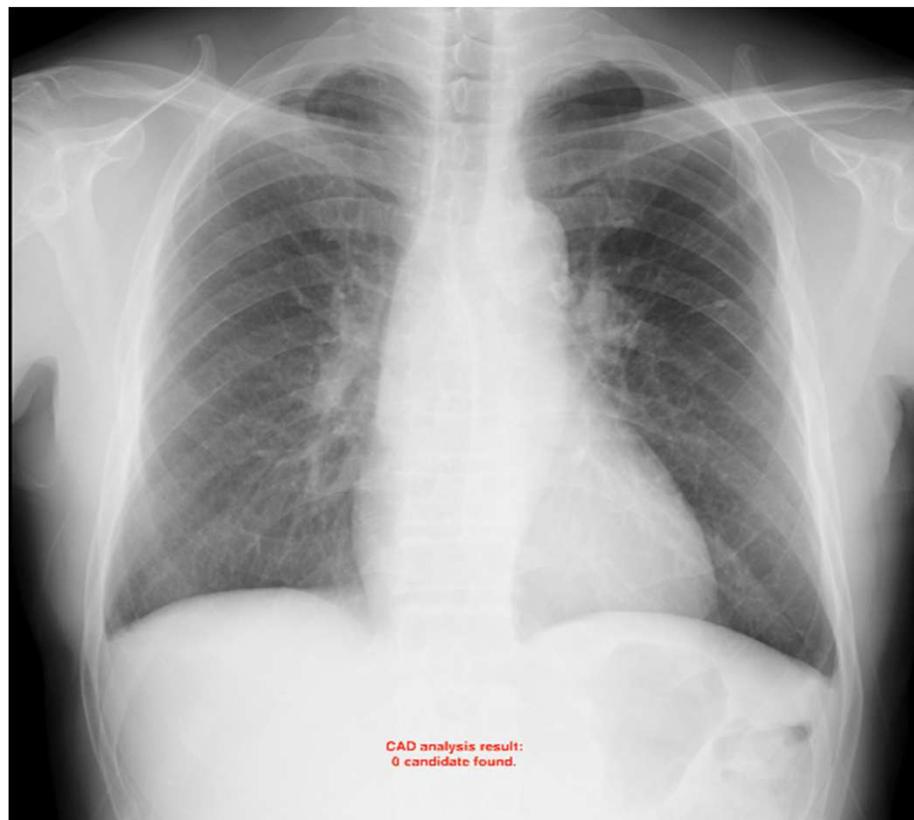
大腸ポリープ候補*を検出し、大腸内視鏡検査を支援する
販売名：医用画像解析ソフトウェアEIRL Colon Polyp 製造販売承認番号：30400BZX00259000
*隆起型及び表面型(表面隆起型)



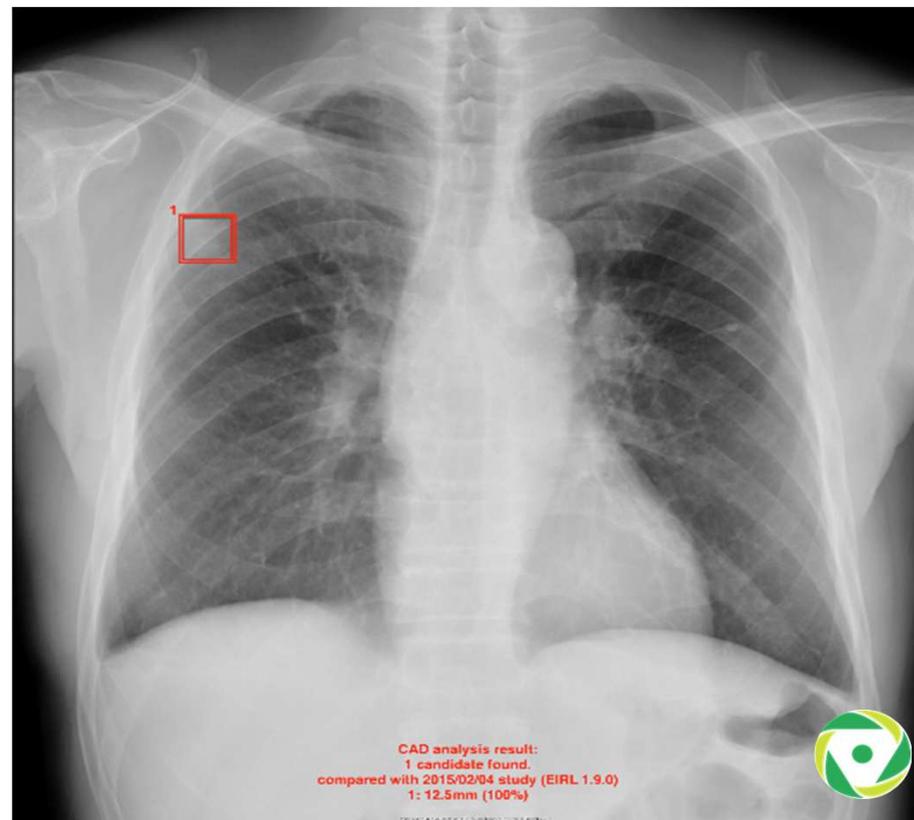
画像情報を表示
販売名：医用画像ビューソフトウェアEIRL Viewer 製造販売承認番号：303AGBZX00046000



オリジナル画像



AI解析画像



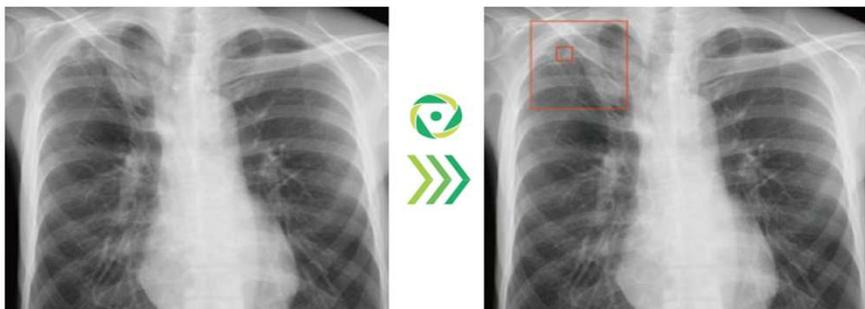
読影精度の向上

画像診断支援AI

どんな事ができるのか？



疾患が疑われる箇所の自動検出



診断に必要な部位の自動計測



過去比較症例

過去に撮影された同一患者の胸部X線画像を比較し、異常陰影候補領域の経時的変化（新規検出の有無）を表示します。

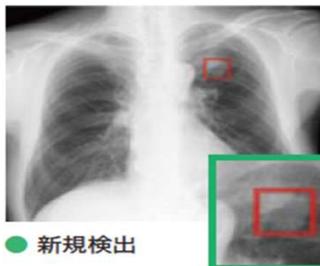
2016年



● 過去画像



2018年



● 新規検出

二重陰影



2020年



● 既検出

一重陰影

二重読影体制

病院や健診施設では二重読影（二重確認法）が行われています



二重読影の背景

- ・ 疲労や集中力低下による見落としがしやすい環境
- ・ 同じ画像でも医師による判断は異なる
- ・ 読影医の経験値には「ばらつき」

一方で負荷の要因に！

厚生労働省
指針

安全性と精度維持のため二重読影が行われている

現在の画像診断AIの立ち位置

“「**AIは診療プロセスの中で医師主体判断のサブステップ**において、その効率を上げて情報を提示する**支援ツールに過ぎない**」、「**判断の主体は少なくとも当面は医師である**」等と整理している。上記のとおり、人工知能（AI）を用いた診断・治療支援を行うプログラムを利用して診療を行う場合についても、**診断、治療等を行う主体は医師であり、医師はその最終的な判断の責任を負うこととなり、当該診療は医師法（昭和23年法律第201号）第17条の医業として行われるものである**”

参考資料3

医政医発 1219 第1号
平成 30 年 12 月 19 日

各都道府県衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省医政局医事課長
(公 印 省 略)

人工知能（AI）を用いた診断、治療等の支援を行うプログラムの利用と
医師法第17条の規定との関係について

近年、機械学習の技術の進歩等により、診療を行うに当たって人工知能（AI）を用いた診断・治療支援を行うプログラムが用いられる機会が増加しており、今後の果たす役割はますます大きくなるものと予想されている。

このような中、平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金により、「AI等の ICT を用いた診療支援に関する研究」（研究代表者：横山和明東京大学医科学研究所附属病院長 兼 傷内科助教）が行われ、本研究の報告書が取りまとめられたところである（表は別添参照）。

当該報告書で人工知能（AI）を用いた診断、治療等の支援を行うプログラムを利用して診療を行うことについて、本研究において行った AI 等の ICT を用いた診療支援に関する調査等を踏まえ、「AI は診療プロセスの中で医師主体判断のサブステップにおいて、その効率を上げて情報を提示する支援ツールに過ぎない」、「判断の主体は少なくとも当面は医師である」等と整理している。

上記のとおり、人工知能（AI）を用いた診断・治療支援を行うプログラムを利用して診療を行う場合についても、診断、治療等を行う主体は医師であり、医師はその最終的な判断の責任を負うこととなり、当該診療は医師法（昭和 23 年法律第 201 号）第 17 条の医業として行われるものであるので、十分ご留意をいただきたい。

人工知能（AI）を用いた診断、治療等の支援を行うプログラムの利用と医師法第17条の規定との関係について
厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000468150.pdf>

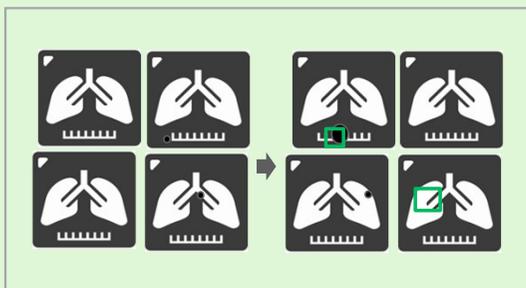
あくまでAIは医師の補助、医師に代わって診断をことはできない

現在の画像診断AIの立ち位置



現在

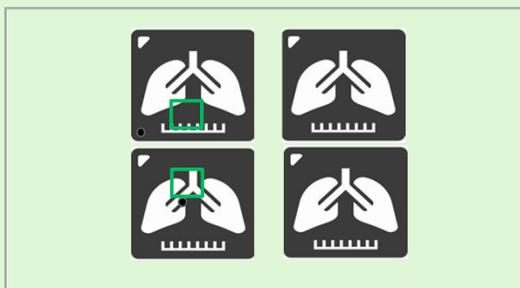
セカンドリード型



医師の読影後に
確認として使用

2026年度～

コンカレントリード型



医師の読影と
同時に使用

20XX年度～

ファーストリード型



医師の読影の前に使用
(陽性のもののみ医師が読影)

読影時間短縮効果

×

○

◎

診断への影響

低

中

大

国内での承認状況

◎

○

×

現状は医師の補助 将来的にはスクリーニング（選別）

現在の画像診断AIの立ち位置



医師不足、見落とし防止などの課題があるなか、 画像診断支援AIが担う役割は大きくなってきています

AI活用で質の維持

専門医不足を始め医師不足の状況である一方、医師は常に診断の質を保つことが求められる。



画像診断支援AIは疲れない。
AIにより**医師が一定の診断の質を保つことをサポートできる可能性**

AIのダブルチェックによる安心感

一人当たりの読影時間は限られていることや疲れに伴う見落としの不安など、医師の心理的負担・精神的負担は非常に大きい。



画像診断支援AIを組み合わせたダブルチェックにより、**心理的にも身体的にも負担の軽減**

AIで計測の手間も軽減

計測作業の手間に加え、検査によっては医師の主観的な判断に依存するものもあり、ばらつきが発生する



手動で計測していたもの、定性的に判断していたものを**手間なく定量化が出来、客観的な数値で確認**することができる

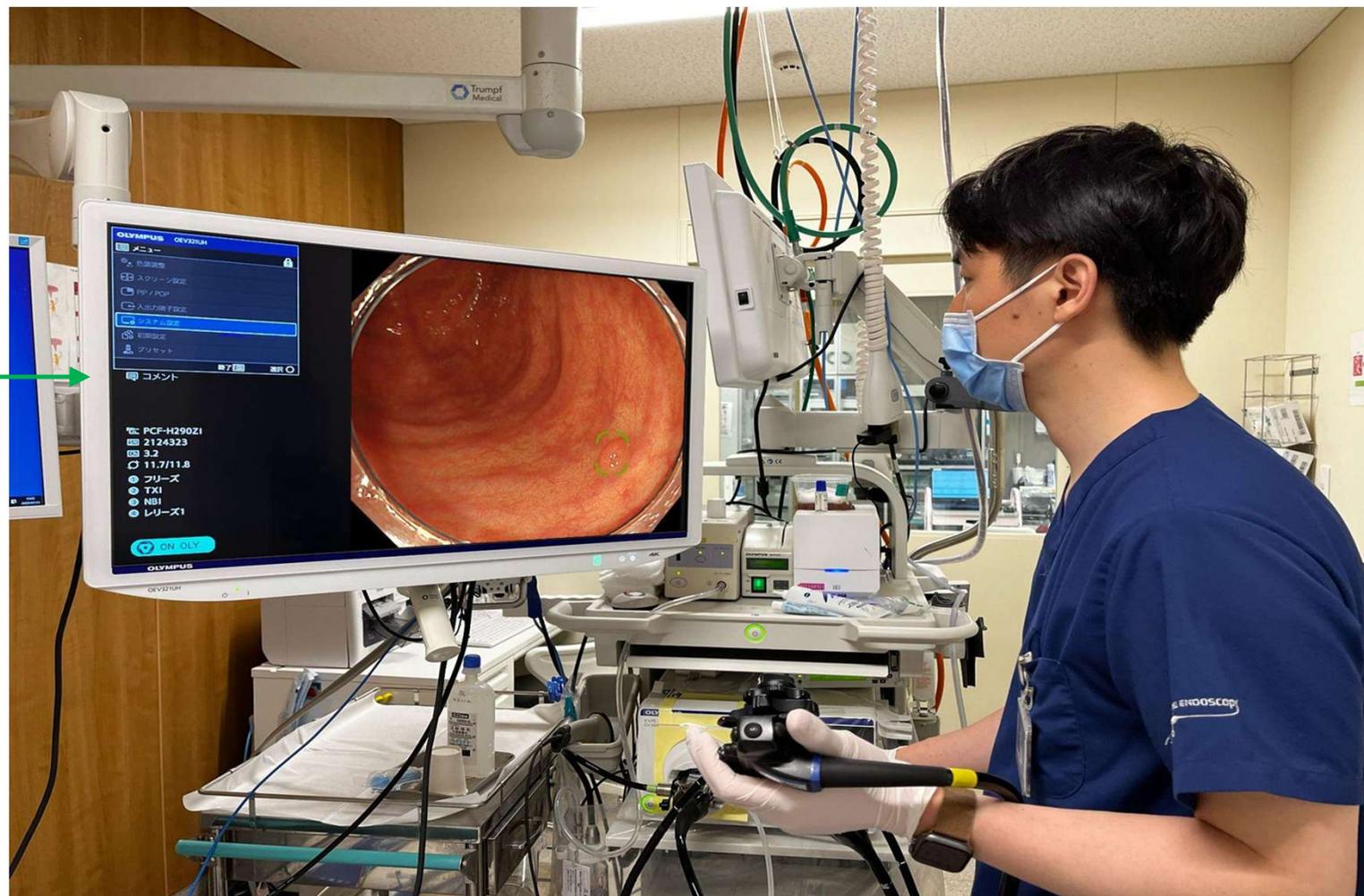
画像診断支援AIを利用により課題解決の一助に期待

4. 画像診断支援AIへの期待



リアルタイム検出

普段検査に使用しているモニター上でリアルタイムに検出結果を確認



音による検出アナウンス
(消音も可)

画像診断支援AIへの期待

新潟日報

発行地域：新潟県
発行部数：36万部
県内シェア39.9%(1位)
2025年4月24日掲載



「画像診断AI」で病変を早期発見&見落とし防止！県内の医療機関でも導入、開業医の負担軽減にも

福井新聞

発行地域：福井県
発行部数：16万2000部
県内シェア54.2%(1位)
2025年7月14日掲載



がん病変検出...AI活用し画像診断支援 福井県内の医療機関でも導入、見落とし防止や医師の負担軽減期待

東奥日報

発行地域：青森県
発行部数：19万6000部
県内シェア54.3%(1位)
2025年6月14日掲載



医療画像診断にAIの「目」/弘大病院など導入進む 精度向上、人手不足も解消 | 青森ニュース

河北新報

発行地域：宮城県ほか、東北地方
発行部数：36万7000部
宮城県シェア35.4%(1位)
2025年7月23日掲載

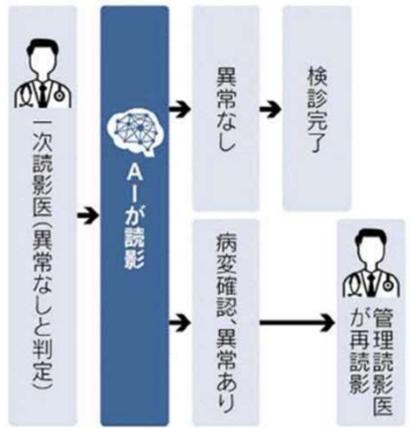


七十七銀などがエルピクセルに投資 AI医療の導入を後押し | 河北新報オンライン

画像診断支援AIへの期待

自治体がん検診にAI

がん検診にAI解析を活用できるように



政府は市区町村が実施するがん検診で、人工知能(AI)を解析に活用することを認める検討に入った。X線検査の画像をAIが解析することで、医師の業務負担を軽減する。地方の医師不足に対応しながら、がん検診の精度を高める。

政府、指針改定へ

画像解析、医師不足に対処

自治体は市区町村が実施するがん検診で、人工知能(AI)を解析に活用することを認める検討に入った。X線検査の画像をAIが解析することで、医師の業務負担を軽減する。地方の医師不足に対応しながら、がん検診の精度を高める。

2~3年?

1人体制での読影

医師不足解消・業務負荷軽減

診断の質 確保

コスト低減による経営改善

社会課題の解決



その進化は「使いやすさ」とともに。

ご清聴ありがとうございました。